

NGU 教養スタンダード

NGU 教養スタンダード

本学のカリキュラムの特色のひとつとして、どの学部 of 学生でも学べる《NGU 教養スタンダード科目》を開設しています。《NGU 教養スタンダード科目》は、現代社会で生きていくために必要な知識と技術をしっかり身につけ、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てるために、次のような 3 つの目標を掲げて、カリキュラムを編成しています。

- キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成
- 社会生活に必要な知識や技術の修得
- 成熟した市民として必要な教養の養成

NGU 教養スタンダード科目の構成

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説 1」「キリスト教概説 2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1 年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2 年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～2b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

情報に関する科目

情報教育の充実、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を必修として学ぶほか、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現」を必修として学び、「日本語表現上級」も学修することができます。

社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、＜歴史・文化＞、＜社会＞、＜自然・人間・生命＞、＜地域＞の 4 区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

大学 COC 事業に関する 4 年間の学修

文部科学省は「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を通じて、全学的に地域と連携した教育・研究・社会貢献に取り組む大学を支援しています。2013 年 8 月、名古屋学院大学は同事業に採択され、学生のみなさんが地域のことに興味関心を抱き、学修意欲を高められるカリキュラムを充実させました。これにより、企業が必要とする「社会人基礎力」が高まり、4 年後の就職にも有利となることをめざしています。

※ COC は「Center of Community」の略で、「地域再生の核となる大学」という意味です。

学生のみなさんは、下図に示すカリキュラムにより、行政や地域（住民・企業・団体）とも連携・協力しながら学修を進めていきます。これらの授業においては、教室内の学修はもちろんですが、学外でのイベントやフィールドワークに参加する場合があります

COC に関するカリキュラムの流れ

カリキュラム	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
① 教育イベント「まちづくり提言コンペ」				
② 課題解決型授業（PBL）				
③ 地域志向型科目（各学部専門科目）				
④ 教育イベント「地域フォーラム」				

- ① 全学生が参加する **1 年生の教育イベント**として、「基礎セミナー」において、名古屋市または瀬戸市にかかわる「**まちづくり提言コンペ**」を実施します。
- ② **課題解決型学習（PBL）**として、全学共通の《NGU 教養スタンダード科目》において、地域商業・減災福祉に関する「まちづくり学」「まちづくり演習」を開講するとともに、希望者は「上級まちづくり演習」（減災福祉のみ）で継続受講することも可能です。
- ③ 各学部の専門科目において、地域を学修対象とした**地域志向型科目**を開講しています。
- ④ 全学生が参加する **3・4 年の教育イベント**として、「演習」での課題研究の成果などを地域の方向けに発表する「**地域フォーラム**」を実施します。専門科目としての演習科目やゼミなどで学修・研究した成果を広く地域へ発信します。

初級まちづくりマイスター

まちづくり分野（地域商業・減災福祉）で開講している「まちづくり学」「まちづくり演習」科目の両方を履修し単位修得した学生に対し、「初級まちづくりマイスター」を認定します。

上級まちづくりマイスター

初級まちづくりマイスターを認定された者のうち、「上級まちづくり演習」を履修し単位修得すること、かつ公的な社会的活動に従事したり公的資格の取得をした学生を対象に、「上級まちづくりマイスター」を認定します。

外国語学部 英米語学科

教育目標（学則第3条の2より）

英米語学科は、英米語の実践的なコミュニケーション能力を習得し、その言語が使用されている地域の文化、社会や世界情勢などを学ぶことにより、広い教養を身につけた国際化に対応できる人材の育成を教育目標とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

外国語学部に所属する学生は、大学全体のディプロマ・ポリシーの内容に加え、学部のカリキュラムを履修、学修することを通じて、以下の能力が獲得できます。これにあわせて、卒業に必要な単位を修得した学生には外国語学部から学士（文学）の学位が授与されます。

知識・技能

- 1) 言語についての幅広い知識を獲得し、それを活かすことができる。
- 2) 英語圏の地域の文化、社会、歴史、価値観などについての十分な知識を獲得し、理解を深めることができる。
- 3) 実践的な英語力の獲得により、グローバルな環境で英語による的確なコミュニケーションや議論ができる。
- 4) 特定のトピックに関して、英語の正確な聴き取り、英語による自己表現を実践することができる。
- 5) 日本語を学ぶ外国人に、日本語、日本文化、日本の習慣・物の考え方などを教えることができる。
- 6) ビジネス、ツーリズムなどの実社会において、論理的に自分の意見を述べることができる。

思考力・判断力・表現力

- 1) グローバルな視点から世界の文化、社会について考え、自分なりの評価を下すことができる。
- 2) 実社会で問題にぶつかった時、それについて注意深く考え、問題解決のための適切な判断を下すことができる。
- 3) ビジネス、ツーリズムなどの実社会において、論理的に自分の意見を述べることができる。

主体性・多様性・協働性

- 1) 「ことば」という観点から、英語がもつ特質・特徴についての十分な知識を獲得する意欲を持っている。
- 2) 実社会に必要な自主性、協調性、ルール順守など、責任ある社会的態度を身につけ、集団内で積極的に活躍できる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

ディプロマ・ポリシーで掲げた目標を達成するために、外国語学部では、次のような教育内容、教育方法、学習成果の評価の方針に基づき、カリキュラム編成と授業実施をおこないます。

教育内容

- 1) 外国語学部のカリキュラムは、NGU 教養スタンダード科目と、学部専門科目によって構成されています。学生は必修科目とともに主体的興味・関心に即してその他の科目を選択します。
- 2) カリキュラムは、基礎から発展・応用へ、個人的レベルから社会的レベルに向かって学びの段階を上げていく学修体系となっており、社会人基礎力を着実に身につけることができます。

- 3) すべての科目は、履修を通じてどんな能力の養成をめざしているのか明示されているので、目的意識をもって計画的に学修できます（養成される能力は、細かく 10 項目に分かれています。詳細は、前項「ディプロマ・ポリシー」を参照してください）。
- 4) 所定の科目を履修し単位を修得すれば、中・高教員免許（英語）や日本語教員養成プログラム修了証を取得できます。
- 5) 学部専門科目には、英米文学、英語学、日本語学など多岐にわたる科目が配置され、その多くは学習段階に合わせ、基礎から発展にいたる科目構成となっています。これらの科目を数多く履修することで、幅広い教養と同時に、専門的な深い学識が身につきます。
- 6) 学部専門科目では、基礎科目群として、英語の 4 技能の修得をめざした必修科目が配置されています。それを土台に発展科目群として、学生の細やかなニーズに応える多様な英語科目と、中・上級者を鼓舞する「英語で学ぶ」諸科目があります。
- 7) 外国語学部では、言語そのものを学ぶに止まらず、ディベートやプレゼンテーション、ビジネスライティングといった技能や、言語に関する学問を身につけます。仕上げとして国際社会への入口となるべき諸科目や、観光業や航空業などへのキャリア形成を応援するビジネス系科目を多く配置しています。

教育方法

- 1) 学生の主体的な学びを引き出すため、ICT 技術の活用、少人数・双方向型の授業の推進を図るとともに、授業外の学修について適切に指導します。
- 2) 1 年次から 4 年次まで演習科目を配置し、グループワークやプレゼンテーションなどを通して講義科目で修得した知識の定着を図ります。
- 3) インターンシップ、フィールドワーク、海外留学など、キャンパス外での学修機会を用意します。特に外国語学部では、海外留学による学修機会を豊富に用意しており、学生が異文化の中で経験を積み、その後の学修や社会に出てからのキャリア形成に貢献できるように努めています。

学修成果の評価

- 1) 各科目の評価は、シラバスに提示された方法に基づき、原則として平常点および試験などの総合評価によりおこなわれます。
- 2) 思考力・判断力・表現力や主体性・多様性・協働性については、それぞれの授業科目において必要に応じて達成度指標を設けて段階的に評価したうえで総合評価に加えます。とりわけアクティブ・ラーニングでは、ルーブリックでの評価が用いられます。
- 3) 学修成果として GPA の他、卒業研究や論文などで達成度を評価します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

求める学生像

- 1) 英語をはじめとする外国語運用能力の向上を自主的にめざす者
- 2) 外国の社会・文化・歴史などに強い関心と理解を持つ者
- 3) 学修した英語をはじめとする運用能力を大いに活用して、国際ビジネス関係、観光業や航空業などに就職したい、また英語教育に携わりたい、海外で日本語教員として活躍したいなど、自分の夢に向かって確実に進んでいく強い意志と向上心をもった者

入学時までに身につけるべき知識、能力など

- 1) 高等学校の英語をはじめとする教科に関する基礎的・基本的な知識・技能
- 2) 基礎的・基本的な知識・技能に基づき、自分の考えをまとめ、他者に伝えるための思考力・判断力・表現力
- 3) 教科の学習にとどまらず、学校内外の多様な学習や活動を経験することによる、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

入学者選抜

大学全体の方針に従い、大学入学時までに培われた確かな基礎学力、外国語学部への適性、多様な学習や活動を通じて身につけた能力や意欲などを、多面的・総合的に評価することを入学者選抜の基本的な方針としています。

カリキュラムの概要

1) 英米語学科の科目について

英米語学科生が履修する科目は大きく区分すれば、「基礎科目群」、「発展科目群」、「第二外国語科目群」そして「演習」の四つから成ります。

- 2-1) 「基礎科目群」は、本学部でぜひ学んでいただきたい、英語や言語についての科目から成り立っています。この科目群のうち英語力強化を主な目的とする科目では、英語の skills を定着させ、さらに磨きをかけていきます。これらの科目は少人数制で編成され、英語の実践的な能力（「話す、聞く、書く、読む」の4技能）を養うことを目的とします。このため、1年次必修科目の「英語」科目では、各学期に週4回（各90分）の授業をネイティブスピーカーの教員と日本人教員の連携により進めます。特に、「スピーキング」は、20名以下のクラスによって授業がおこなわれ、効果的に英会話能力を身につけることができます。「英語プロジェクト」はコミュニケーションスキルと言語知識を統合する科目で、自分の英語力をフルに活用して各学生が自分の興味に応じて選択したテーマについて調査しプロジェクトワークをおこないます。これまでの英語学習の基本的な部分に不安を感じている学生のために、習熟度別クラス編成を採用しています。現在の英語力と授業の難度・進度が合致し、学生が自信をもてるような編成です。うまく活用して英語力を伸ばすようにしましょう。

一方、「基礎科目群」には、教養ある話し手になるため皆さんに知っておいてほしい内容を提供する科目も含まれます。というのも、言語は文化や社会と密接に結びついたものであるからです。そして、こうした科目にも英語学習に役立つ情報が多く含まれています。

- 2-2) 「発展科目群」は「英語力発展科目」「国際社会科目」「キャリア形成科目」「外国体験科目」から成ります。「英語力発展科目」は「基礎科目群」で得た技能を土台として、より実践的な英語力の獲得をめざします。トピック別英語演習といった科目、ツーリズムなどで用いる実用的な英語を学ぶ科目、さらに、留学のための TOEFL（留学英語中級・上級）や就職で求められる TOEIC の対策コースも用意してあります。英語で話すことが前提とされる授業はいわば留学して授業を受けているのと同じです。英語学習自体が目的ではなく、英語を用いて授業に参加することによって、実践レベルでの英語運用力の開発をめざします。
- 2-3) 「第二外国語科目群」では「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「中国語」の授業を提供しており、いずれも各言語に関する幅広い知識の習得と運用能力の向上を目指します。
- 2-4) 「演習」（3・4年次必修）は3年次から始まります。「演習」（ゼミ）に参加して、卒業にいたるまでの2年間、専門的な研究活動をおこないます。卒業するために、「演習」は3・4年次の2年間続けて履修しなければなりません。「演習」は英米語学科での学修の中核に位置し、学生生活の集大成をおこなう授業科目です。指導教員の指導のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、卒業研究を行います。

以上のように、本学科のカリキュラムは、受講者の力と関心に沿って学修ができるように編成されていますので、みなさんはその科目がもつ目的をしっかり把握した上で受講してください。

カリキュラム上の特色

英米語学科の特色

「人と英語と社会をつなぐ」が英米語学科のカリキュラムモットーです。本学で培う「豊かな人間力」に「実践的英語力」と「キャリア形成」を結びつけることを目標に本学科の教育課程（カリキュラム）は編成されています。英語のエキスパートを育成するために、国際社会の中で自らの意見を発信し、知的に表現できるような高度なコミュニケーション能力の養成に重点を置きます。同時に、卒業後の進路について考えるための材料を提供する科目群が整備されています。具体的には次のような特色をもっています。

1) 英語を徹底的に追求したい学生に高度な英語運用能力を保証するカリキュラム

高度な英語運用能力を身につけたいという学生のためにネイティブスピーカーによるすべて英語でおこなわれる授業があります。英語はあくまでも道具であり、英語を学習すること自体が目標ではありません。英語を通じて新しいことを学んでいきます。最初は難しいと思うかもしれませんが慣れれば案外やさしいものです。自分の力がどれくらい通用するかを試す絶好のチャンスです。積極的にチャレンジすれば、飛躍的に英語力を高めることができます。

2) グローバルな環境で国際性を磨く充実した留学制度

名古屋学院大学と言えば「留学」と言われてきたように、本学科の大きな特色に充実した留学制度があげられます。国際センターと協働で、留学をめざす学生を支援します。単位振替も柔軟に対応できるようになっています。

3) 大学卒業後のキャリア形成に役立つ科目が充実したカリキュラム

英語力を武器にして自分のキャリアを切り開いていくために、職業に直結する科目を大幅に増やしました。大学に入學する時点では4年後の自分を描くことは難しいことです。そこで、社会のしくみや仕事に関係する常識・知識などを提供する「キャリア形成科目」をうまく使って自分の将来を描いていくことにしましょう。同時に、国際社会についての基礎知識を学ぶことも、大学4年間の大きな目的のひとつです。特にグローバルな現代社会においてさまざまな地域について研究することは、地球市民として21世紀を生きてゆく若者たちには不可欠な知見であると考えます。

3-1) エアライン講座 (iWing プログラム)

キャビンアテンダントやグラウンドスタッフなどの業種で、就職を考えている学生を対象とした講座を開設しています。ANA（全日本空輸）との連携による実践的な科目も用意されています。航空業界で培われてきた「おもてなし」のスキルを学ぶことができます。講義だけでなく、中部国際空港などの航空関連施設での実地研修や、講師による個別指導も準備しています。

本講座は航空業界の視点で求められる適性を把握し、各自の今後の大学生活を方向づける一助となるものです。キャビンアテンダントの就職にはTOEIC700点以上が必要と言われており、エアライン系に就職を希望する学生は1年次から英語力をつける必要があります。

1・2年次で本学カリキュラムの下記の科目を履修し、3年次には、各自で学外の専門学校で就職対策科目を学ぶことをおすすめします。その際、3年次の専門学校での履修については別途費用が必要です。また、そこでの学修は本学のカリキュラム外のため、本学での単位認定もできません。

＜エアライン講座科目＞

- 1 年次 「エアライン研究 1」 (2 単位)
「エアラインサービス論」 (2 単位)
「ホスピタリティ・マネジメント論」 (2 単位)
- 2 年次 「エアライン研究 2」 (2 単位)
「エアライン英語」 (2 単位)
「ホスピタリティ論」 (2 単位) * 「ホスピタリティ論」は人数制限があります。
- 3 年次 「ホスピタリティ演習」 (2 単位)

3-2) 充実のツーリズム（旅行・観光業）科目群

多くの学生にとって希望業種であるツーリズム関係の科目を開講しています。

ツーリズムでのビジネス経験をもつ専任教員から実践的な授業が展開されます。もちろん、英米語学科の学生を対象とした科目なので、世界共通語である英語を用いた海外（アウトバウンド）ツーリズムを対象とするのはもちろんですが、海外から（インバウンド）の観光という観点からの内容も含まれます。エアライン講座科目とあわせて履修するとツーリズムに関心のある学生には就職に有利に働きます。

4) 中学校・高等学校の教員免許取得

英米語学科では中学校教諭（英語）と高等学校教諭（英語）の 1 種免許状を取得するための教職課程が認められています。中学校・高校の教諭になりたいという希望をもつ学生は、教職課程に加入し、計画的に必要な単位をとるように心がけてください。単位の修得にあたっては、「教職課程ハンドブック」を確認してください。

5) 日本語教員養成のためのプログラムの設置

日本語を学ぶ外国人に日本語や日本文化、日本の習慣や考え方などを教える日本語教員をめざす学生たちのために「日本語教員養成プログラム」を設置しています。このプログラムをとおして日本語教育のための基礎的・総合的な能力を身につけることが可能です。卒業所要単位につけ加えてこのプログラムで定める単位を修得すれば、修了証が交付されます。加入者募集は 1・2 年次の秋学期におこないます。

6) 「楽しみながら英語（Hobinglish）」科目の配置

興味ある分野から英語へアプローチ：ホビングリッシュ科目を準備して楽しみながら英語を学べます。Hobinglish＝Hobby English とは興味ある分野から英語を学ぶためのトレンドなアプローチです。トピック別英語演習という科目を用意しています。「好きこそもの上手なれ」趣味と同時に英語を学べる絶好の機会です。

他機関との単位互換

● 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所での言語研修

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所は日本で初めての人文科学系の共同利用研究所であり、毎年多くの研修や研究会がおこなわれています。本学は同研究所と単位交換の協定を締結しており、夏期休暇中に東京地区と関西地区で実施される言語研修を修了した場合は、研修時間数に応じて、本学の科目「海外事情」（8 単位を上限）に振替えることができます。

※ 過去に開催された言語研修や参加申し込みなど、詳細は東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所ホームページ（<http://www.aa.tufs.ac.jp/>）で確認できます。

※ 単位の振替は、修了証を持参の上、教務課窓口で申請してください。

大学院科目の単位履修

● 大学院進学コース

外国語学部では、本学の大学院外国語学研究科（英語学専攻・国際文化協力専攻）と連携し、学部教育の充実・発展をはかることを目的に、「大学院進学コース」を設置しています。学部の4年次にコースに加入し、大学院の授業科目を先取りして履修することにより、大学院進学後に単位認定を受けることができます。大学院在籍1年間で修士課程を修めることも可能であり、学部在籍4年、大学院在籍1年で修士の学位を取得することもできます。また、大学院への進学が未定の場合でも、4年次に高度な専門知識を学びたいと願う学部生は本コースへ加入することができます。このように、学部と大学院の連携を密接にすることにより、意欲的な学生層が形成され、新たな教育効果が発揮されることを期待しています。また、本コースに加入することで、教職課程に加入し、本学大学院に通学しながら、教職免許状を取得することが可能です。

大学院進学コースでの履修は、以下のとおりです。

- ① 大学院で開講されている科目（演習を除く）について、学部4年次に履修します。
- ② 大学院での履修単位は、学部の卒業要件には含まれません。
- ③ 大学院授業科目の履修は、演習科目を除き10単位を上限としています。
- ④ 大学院での履修は、各学期（セメスター）の履修制限単位数（24単位）には含まれません。
- ⑤ 大学院授業科目は、大学院の科目等履修生として履修します。
- ⑥ 本学大学院に進学した場合は、本コースでの修得単位は大学院（修士課程）の修了単位に含めることができ、特に成績の優れた学生は大学院在籍1年間で修士の学位を取得することが可能となります。

大学院進学コースへの加入を希望する方は、教務課に問い合わせてください。

※ 指定された期日までに「大学院進学コース加入申込書」を教務課に提出する必要があります。

資格単位認定

学生が主体的に学ぶ意欲を評価することを目的として、「ビジネス実務A～C」を配置しています。また、より高い目標へ挑戦する学生をサポートすることを目的として、特定の授業科目の単位認定制度を設けています。学部が指定する資格を取得し、定められた基準をクリアした場合に、本人の申請にもとづき、所定の単位が認定（R評価）されます。なお、資格センターではみなさんの便宜をはかるために、各種資格講座を学内で開設しています。

1. 対象となる資格など

表1（「ビジネス実務A～C」を単位認定）

認定する資格・検定名	認定基準
ビジネス能力検定試験（B検）ジョブパス	2級以上
秘書技能検定試験	2級以上
ITパスポート試験	資格取得
情報セキュリティマネジメント試験	資格取得
旅行業務取扱管理者試験 （「国内」または「総合」）	資格取得
世界遺産検定	3級以上
通関士試験	資格取得

認定する資格・検定名	認定基準
宅地建物取引士資格試験	資格取得
行政書士試験	資格取得
リテールマーケティング（販売士）検定試験	2級以上
二種証券外務員資格	資格取得
日本語検定	2級以上
ファイナンシャル・プランニング技能検定	3級以上
貿易実務検定	C級以上

表 2 (特定の授業科目を単位認定)

認定する資格・検定名と基準	認定される授業科目 (単位数)	認定される最大単位数
実用英語技能検定 2 級	TOEIC 英語初級 (2)	2 単位
実用英語技能検定 準 1 級	TOEIC 英語初級・中級・上級 (各 2)	1 年生 : 6 単位 2 年生以上 : 4 単位
TOEFL iBT 61 点以上 — 80 点未満 TOEFL-ITP 500 点以上 — 550 点未満	TOEIC 英語初級・中級・上級 (各 2) 留学英語中級 (2)	4 単位
TOEFL iBT 80 点以上 TOEFL ITP 550 点以上	TOEIC 英語初級・中級・上級 (各 2) 留学英語中級・上級 (各 2)	8 単位
TOEIC Listening & Reading (IP を含む) 600 点以上 — 670 点未満	TOEIC 英語初級・中級 (各 2)	2 単位
TOEIC Listening & Reading (IP を含む) 670 点以上 — 800 点未満	TOEIC 英語初級・中級・上級 (各 2)	4 単位
TOEIC Listening & Reading (IP を含む) 800 点以上	TOEIC 英語初級・中級・上級 (各 2) 留学英語中級・上級 (各 2)	8 単位

2. 申請期間

春学期は 6 月、秋学期は 12 月の開講日に申請。申請月以前 2 年以内に取得したものに限り。ただし、入学前に取得したものは、入学年度に限り受けつけます。

3. 申請期間の特例

最終学年の学生 (卒業予定者) に限り、「2. 申請期間」以外に教務課より CCS にて周知される特定の期間において追加申請を受けつけます。

4. 認定

各学部において承認された場合、単位を認定します。

5. 成績評語など

単位認定の成績評語は「R」(認定)とします。認定された科目は GPA 算出の対象外となります。

6. 補足事項

認定単位数は、履修制限単位数には含みません。

表 1 について、各種資格の申請は各 1 回とします。

表 2 について、過去に申請した点数・等級を下回る申請は認定しません。認定の上限は 8 単位までとします。

演習科目

先にも述べたとおり、英米語学科では、3 年次から「演習」(ゼミ)に参加して、卒業にいたるまでの 2 年間、専門的な研究活動をおこないます。卒業するために、「演習」は 3・4 年次の 2 年間続けて履修しなければなりません。「演習」はみなさんの英米語学科での学修の中核に位置し、学生生活の集大成をおこなう授業科目です。指導教員の指導のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や議論を通じて問題を解決しながら、自らの能力の向上に努めるとともに、人格的な交流をとおして、多くの友人関係を育成し、また、指導教員との間にみなさんの学修にとって有意義なコミュニケーションのパイプを形成してください。

「演習」は、指導教員と学生、あるいは学生相互間での学問的な意見交換の場であり、各学生が主体的に活動を進めていく点が、他の授業科目と根本的に異なります。そこでは、自己の学問的見解を進んで発表し、これに寄せられるさまざまな

意見を聞くことによって、専門的知識の水準を高めていく必要があります。「演習」で作成される卒業論文は、みなさんにとっては初めての本格的な論文作成となり、貴重な経験として、卒業後も役に立つことになるはずです。

また、「演習」ではみなさんの進路指導もおこないます。指導教員、他の学生（または先輩学生）と相談をしながら進路を選択し、履歴書やエントリーシート作成、面接の準備などをおこないます。

「演習」の募集と応募について

「演習」を受講するためには、まず2年次春学期におこなわれるガイダンスに参加することが必要です。各教員からゼミの内容・実施方法などについての説明をよく聞いて、希望する指導教員を決定してください。その後、2年次秋学期にCCSを通じて応募をおこない、選考の結果所属する「演習」が決定します。演習募集時の募集要項をよく読み、日程などを間違えないよう、確実に応募手続きをおこなってください（応募時期に海外留学へ行く学生は、締め切り時期や応募方法が異なる場合がありますので、事前に必ず教務課で確認をしてください）。

基礎セミナー

3・4年次の演習とは別に、1年次春学期には「基礎セミナー」を履修します。これは、新入生のみなさんが新しい大学生活を始めるための第一歩をお手伝いするための科目です。具体的には、名古屋学院大学はどんな大学なのか、大学ではどのように学習していけばいいか、レポートの書き方、発表のしかたなどについて学びます。

履修モデル

英米語学科では、英語の実践的な能力を磨くための科目「英語101～英語206」、「英語プロジェクト1～4」および「演習」が必修科目となっています。

これらの授業科目以外の学部専門科目はすべて選択科目であり、どの授業科目を履修するかは、卒業するための条件や授業時間割上の制約などがありますが、基本的にはみなさんが自由に決めることができます。しかしながら、明確な学修計画を立てずに、ただ決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修のしかたでは、たとえ4年間在籍したとしても、英米語学科の卒業生にふさわしい能力と見識をもつことはできません。したがって、自らの学修目標にあわせて、各々の授業科目の内容や開講時期（配当年次）を考慮しながら系統的に履修しなければなりません。

ここでは、みなさんの学修計画が立て易いように、以下の3つの履修モデルを示します。

- A. 高度な英語実践力を身につけるモデル
- B. グローバルな企業人をめざすモデル
- C. エアラインや旅行・観光業界就職をめざすモデル
- A. 高度な英語実践力を身につけるモデル

高度な英語運用能力を身につけたい学生や、英語教員・海外での日本語教員をめざす学生に対応します。資格試験で高得点をめざすだけでなく、「英語力発展科目」を履修することで、「使える」英語の獲得をめざします。

この履修モデルでは以下のような授業を履修します。

英語力発展科目	上級英語1 リサーチ&スピーチ、英語プレゼンテーション、留学英語上級、TOEIC 英語上級、英語同時通訳入門など
その他	海外事情（留学）など

B. グローバルな企業人をめざすモデル

英語力を武器にして、グローバル社会の中で自分のキャリアを切り開いていくための力を身につけるモデルです。英語力だけでなく、国際感覚やビジネスに関する知識を得たい学生に向いています。

この履修モデルでは以下のような授業を履修します。

英語力発展科目	グローバル英語、ビジネス英語、留学英語中級など
キャリア形成科目	ビジネス翻訳など
その他	海外事情（留学）、アメリカ研究Ⅰ、グローバル・イシューなど

C. エアラインや旅行・観光業界就職をめざすモデル

エアライン関係（キャビンアテンダントやグラウンドスタッフ）やツーリズム関係（旅行代理店、ホテル）をめざしている学生に対応します。就職の際に必要な TOEIC のスコアアップに加え、実践的な授業を受けることで即戦力を身につけることができます。

この履修モデルでは以下のような授業を履修します。

英語力発展科目	エアライン英語、ツーリズム英語、TOEIC 英語中級など
キャリア形成科目	エアラインサービス論、ツーリズム演習、ホスピタリティ論など
その他	海外事情（留学）など

もちろん、ここにあげた 3 つの履修モデルは、あくまでモデルケースとして考えたもので、これら以外にもみなさんの学修意欲と目的に応じて、自分自身の履修パターンをつくることができます。

重要なことは、どんな優れた語学プログラムでもそこだけの学修で言語を習得するのは無理だという認識です。英米語学科の教育課程（カリキュラム）も優れたものではありませんが、学習者の日々のトレーニング抜きでは、英語運用能力を実用水準にまで高めることはできません。授業を十分に活用し、課題をこなし、ネイティブの教員や留学生と積極的に英語でコミュニケーションをとることが大切です。また、通学時などの細切れの時間を利用することも考えてください。コンピュータ、CD、DVD などを利用して、音声言語としての英語に慣れましょう。このための時間として年間 400 時間を目標とするとよいでしょう。

さらに、年間 1,000 ページくらいを目標に、英語の読み物やニュース記事などを読んでみるのも重要です。読めるスピードが聞けるスピードだと言われています。簡単な英語のレベルの読み物でいいので、多量の読み物を読みましょう。高校 1 年レベルの英文が直読直解できるようになることが第 1 の目標です。英語は勉強というよりもトレーニングです。水泳などのスポーツと同じです。間違えてもかまいません。そのような繰り返しの中で知識としての英語がスキルに変化していくのです。みなさんは本学科に入学できるだけの知識をもっているのですから、まずはそれを使っていきましょう。TOEIC700 点になれば、あるいは英検準 1 級に合格すれば英語が聞き、話せるのではないのです。今のみなさんがもっている英語力を使うことから始まります。野球で身を立てたいと思う人が毎日素振りをするのと同じように、英語のトレーニングを習慣づけてください。そして、いつもどのようにすれば効果的なトレーニングができるかを意識してください。

さらに本学の特徴である留学は、英語をより深く身につけるために大きな効果が期待できます。そればかりでなく、英語を話す人々の文化を理解し、自分自身を客観的に見る機会を与えてくれます。これらのプログラムにも積極的に参加して、英語学修の効果をいっそう高めてください。

卒業要件

卒業要件単位の修得

外国語学部のカリキュラム表にもとづいて必要な単位数（124 単位）以上を修得しなければなりません。

卒業要件単位数

上記の、学則第 16 条に規定する単位数（124 単位）を卒業要件単位数といいます。それぞれの単位数には必修科目を含みます。授業科目表と照らして区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

NGU教養 スタンダード科目	キリスト教			26単位以上 (必修10単位を 含む)
	自己理解と自己開発			
	情報			
	言語とコミュニケーション			
	歴史・文化の理解、社会の理解、 自然・人間・生命の理解、地域の理解			
	教職 ※1			
学部専門科目	基礎科目群	必修	30単位	88単位以上
	基礎科目群	14単位以上		
	第二外国語科目群 ※2	必修選択	8単位	
	発展科目群	36単位以上		
自由選択科目(フリーゾーン) ※3				10単位以上
合計				124単位以上

※1 教職課程加入者のみ履修可。8単位までをNGU教養スタンダード科目の卒業要件単位とすることができる。(8単位を超える分については、自由選択科目の単位とする。)

※2 ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語の中から1ヶ国語を選択し、入門・基礎・発展・応用のそれぞれ1・2を修得しなければならない。

※3 科目区分を問わず、自由に選択できる。

英米語学科 NGU教養スタンダード

授業科目名	単位数		配当 年次	ナンバ リング
	必修	選択		
キリスト教				
キリスト教概説1	2		1	AC1101
キリスト教概説2	2		1	AC1102
聖書学		2	2	AC2301
キリスト教倫理		2	2	AC2302
キリスト教史		2	1	AC1301
自己理解と自己開発				
基礎セミナー	2		1	AU1101
発展セミナー		2	1	AU1301
キャリアデザイン1a		2	1	AU1302
キャリアデザイン1b		2	1	AU1303
キャリアデザイン2a		2	2	AU2301
キャリアデザイン2b		2	2	AU2302
ボランティア学		2	1	AU1304
ボランティア演習		2	1	AU1305
インターンシップ1		2	1	AU1306
インターンシップ2		2	1	AU1307
情報				
情報処理基礎	2		1	AI1101
言語とコミュニケーション				
日本語表現	2		1	AV1101
日本語表現上級		2	1	AV1301
歴史・文化の理解				
【教養】日本史		2	1	AW1301
【教養】世界史		2	1	AW1302
【教養】日本文学		2	1	AW1303
【教養】外国文化論		2	1	AW1304
【教養】文化人類学		2	1	AW1305
【教養】陶芸論		2	1	AW1306
【教養】陶芸演習		2	1	AW1307
社会の理解				
【教養】政治学		2	1	AO1301
【教養】国際政治学		2	1	AO1302
【教養】国際関係論		2	1	AO1303
【教養】平和学		2	1	AO1304
【教養】法学		2	1	AO1305
【教養】日本国憲法		2	1	AO1306
【教養】経済学		2	1	AO1307
【教養】経営学		2	1	AO1308
【教養】統計学		2	1	AO1309
【教養】社会学		2	1	AO1310
【教養】教育学		2	1	AO1311
自然・人間・生命の理解				
【教養】哲学		2	1	AN1301
【教養】心理学		2	1	AN1302
【教養】数学		2	1	AN1303
【教養】物理学		2	1	AN1304
【教養】化学		2	1	AN1305
【教養】地学		2	1	AN1306
【教養】生物学		2	1	AN1307
【教養】環境学		2	1	AN1308
【教養】情報処理論		2	2	AN2301
【教養】スポーツ健康科学		2	1	AN1309
【教養】スポーツ初級a		1	1	AN1310
【教養】スポーツ初級b		1	1	AN1311
【教養】スポーツ中級a		1	2	AN2302
【教養】スポーツ中級b		1	2	AN2303
地域の理解				
まちづくり学		2	1	AR1301
まちづくり演習		2	1	AR1302
上級まちづくり演習		2	2	AR2301

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
	必修	選択		
教職				
教職論		2	1	AQ1301
教育原理		2	1	AQ1302
教育心理学概論1		2	1	AQ1303
教育心理学概論2		2	1	AQ1304
教育制度論		2	1	AQ1305
特別活動論		2	2	AQ2301
教育とICT活用		2	2	AQ2302
道徳教育論		2	2	AQ2303
生徒・進路指導論		2	2	AQ2304
教育相談		2	2	AQ2305

英米語学科 専門科目

授業科目名		単位数		配当年次	ナンバリング	
		必修	選択			
学部専門科目	基礎科目群	英語力強化科目				
		英語101スピーキング	1		1	FE1101
		英語102スピーキング	1		1	FE1102
		英語103ライティング	1		1	FE1103
		英語104ライティング	1		1	FE1104
		英語105リーディング	1		1	FE1105
		英語106リーディング	1		1	FE1106
		英語107リスニング	1		1	FE1107
		英語108リスニング	1		1	FE1108
		英語201スピーキング	1		2	FE2101
		英語202スピーキング	1		2	FE2102
		英語203ライティング	1		2	FE2103
		英語204ライティング	1		2	FE2104
		英語205リーディング	1		2	FE2105
		英語206リーディング	1		2	FE2106
		英語プロジェクト1	2		1	FE1109
		英語プロジェクト2	2		1	FE1110
		英語プロジェクト3	2		2	FE2107
		英語プロジェクト4	2		2	FE2108
	演習	8		3～4	FE3101・FE4101	
	基礎科目群	英語学概論1		2	1	FE1301
		英語学概論2		2	1	FE1302
		英米文学概論1		2	1	FE1303
		英米文学概論2		2	1	FE1304
		応用言語学概論1		2	1	FE1305
		応用言語学概論2		2	1	FE1306
		英語学講義1		2	2	FE2301
		英語学講義2		2	2	FE2302
		英米文学講義1		2	2	FE2303
		英米文学講義2		2	2	FE2304
		応用言語学講義1		2	2	FE2305
		応用言語学講義2		2	2	FE2306
		日本語概論1		2	2	FE2307
		日本語概論2		2	2	FE2308
		日本語学1		2	2	FE2309
		日本語学2		2	2	FE2310
		ことばの世界		2	2	FE2311

授業科目名		単位数		配当 年次	ナンバ リング
		必修	選択		
第一外国語科目群	入門ドイツ語1		1	1	FE1201
	入門ドイツ語2		1	1	FE1202
	基礎ドイツ語1		1	1	FE1203
	基礎ドイツ語2		1	1	FE1204
	発展ドイツ語1		1	2	FE2201
	発展ドイツ語2		1	2	FE2202
	応用ドイツ語1		1	2	FE2203
	応用ドイツ語2		1	2	FE2204
	入門フランス語1		1	1	FE1205
	入門フランス語2		1	1	FE1206
	基礎フランス語1		1	1	FE1207
	基礎フランス語2		1	1	FE1208
	発展フランス語1		1	2	FE2205
	発展フランス語2		1	2	FE2206
	応用フランス語1		1	2	FE2207
	応用フランス語2		1	2	FE2208
	入門スペイン語1		1	1	FE1209
	入門スペイン語2		1	1	FE1210
	基礎スペイン語1		1	1	FE1211
	基礎スペイン語2		1	1	FE1212
	発展スペイン語1		1	2	FE2209
	発展スペイン語2		1	2	FE2210
	応用スペイン語1		1	2	FE2211
	応用スペイン語2		1	2	FE2212
	入門中国語1		1	1	FE1213
	入門中国語2		1	1	FE1214
学部専門科目	基礎中国語1		1	1	FE1215
	基礎中国語2		1	1	FE1216
	発展中国語1		1	2	FE2213
	発展中国語2		1	2	FE2214
	応用中国語1		1	2	FE2215
	応用中国語2		1	2	FE2216
	英語力発展科目				
	留学英語中級		2	1	FE1307
	留学英語上級		2	2	FE2312
	TOEIC英語初級		2	1	FE1308
	TOEIC英語中級		2	1	FE1309
	TOEIC英語上級		2	2	FE2313
	エアライン英語		2	2	FE2314
	ツーリズム英語		2	2	FE2315
	ビジネス英語		2	2	FE2316
	ニュース英語		2	2	FE2317
	グローバル英語		2	2	FE2318
	インターネット英語		2	2	FE2319
	トピック別英語演習1		2	2	FE2320
	トピック別英語演習2		2	2	FE2321
	トピック別英語演習3		2	2	FE2322
	トピック別英語演習4		2	2	FE2323
	英語翻訳入門		2	2	FE2324
	英語同時通訳入門		2	2	FE2325
	中級英語1 読解&ディベート		2	2	FE2326
	中級英語2 読解&ディベート		2	2	FE2327
	上級英語1 リサーチ&スピーチ		2	2	FE2328
	上級英語2 リサーチ&スピーチ		2	2	FE2329
	英語プレゼンテーション		2	2	FE2330
発展科目群	英語ビジネスディスカッション		2	2	FE2331
	英語ビジネスライティング		2	2	FE2332
	異文化理解概論		2	2	FE2333
	言語と心理		2	2	FE2334
	言語と文化		2	2	FE2335
	言語と社会		2	2	FE2336
	日本文化研究		2	2	FE2337

授業科目名		単位数		配当 年次	ナンバ リング	
		必修	選択			
学部専門科目	発展科目群	国際社会科目				
		アメリカ研究1		2	2	FE2338
		アメリカ研究2		2	2	FE2339
		ヨーロッパ研究		2	2	FE2340
		グローバル・イシュー		2	2	FE2341
		キャリア形成科目				
		英語科教育法1		4	2	FE2342
		英語科教育法2		4	2	FE2343
		英語音声学		2	2	FE2344
		早期英語教育法		2	2	FE2345
		ビジネス翻訳		2	2	FE2346
		貿易・商社研究		2	2	FE2347
		流通研究		2	2	FE2348
		メディア研究		2	2	FE2349
		秘書キャリア研究		2	2	FE2350
		観光産業論		2	2	FE2351
		ツーリズム演習		2	3	FE3301
		エアライン研究1		2	1	FE1310
		エアライン研究2		2	2	FE2352
		ツーリズム論		2	2	FE2353
		地域観光論		2	2	FE2354
		ホスピタリティ・マネジメント論		2	1	FE1311
		ホスピタリティ論		2	2	FE2355
		ホスピタリティ演習		2	3	FE3302
		エアラインサービス論		2	1	FE1312
		ビジネス実務A		2	1	FE1313
		ビジネス実務B		2	1	FE1314
		ビジネス実務C		2	1	FE1315
		外国体験科目				
		海外事情1		4	1	FE1316
		海外事情2		4	1	FE1317
		海外事情3		4	1	FE1318
		海外事情4		4	1	FE1319
		海外事情5		4	1	FE1320
		海外事情6		4	1	FE1321
		海外事情7		4	1	FE1322
		海外事情8		4	1	FE1323
		海外事情9		4	1	FE1324
		海外事情10		4	1	FE1325
		海外事情11		2	1	FE1326
		海外事情12		2	1	FE1327
		海外事情13		2	1	FE1328
		海外事情14		2	1	FE1329
		海外事情15		2	1	FE1330

選択必修科目

ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語の中から1ヶ国語を選択し、入門・基礎・発展・応用の1と2を修得しなければなりません

入門ドイツ語1・2	入門スペイン語1・2
基礎ドイツ語1・2	基礎スペイン語1・2
発展ドイツ語1・2	発展スペイン語1・2
応用ドイツ語1・2	応用スペイン語1・2
入門フランス語1・2	入門中国語1・2
基礎フランス語1・2	基礎中国語1・2
発展フランス語1・2	発展中国語1・2
応用フランス語1・2	応用中国語1・2